

Code Orange

	代表者	河生多佳雄 (医学B 4年)
構成員	綾田亮 (医学B 6年) 岩橋晶子 (医学B 6年) 梶間未葵 (医学B 6年)	
	木村翔一 (医学B 6年) 島袋太一 (医学B 6年)	
	下川純希 (医学B 6年) 下西惇 (医学B 6年)	
	仲田成美 (医学B 6年) 中溝一充 (医学B 6年)	
	吉田陽 (医学B 6年) 吉村沙記 (医学B 6年)	
	瀬戸口尚登 (医学B 5年) 今井智子 (医学B 5年)	
	岡本彩 (医学B 5年) 柏原彩乃 (医学B 5年)	
	近藤萌 (医学B 5年) 新庄英梨子 (医学B 5年)	
	田村友里 (医学B 5年) 富永和花 (医学B 5年)	
	中島京 (医学B 5年) 縄田慈子 (医学B 5年)	
	西田拓人 (医学B 5年) 久本沙和 (医学B 5年)	
	森麻里母 (医学B 5年) 明野由里奈 (医学B 4年)	
	小関元太 (医学B 4年) 加藤優里 (医学B 4年)	
	佐村美穂 (医学B 4年) 田代恵莉 (医学B 4年)	
	永久成一 (医学B 4年) 西田彩華 (医学B 4年)	
	浜辺龍太郎 (医学B 4年) 宮本翔太 (医学B 4年)	
	矢田祥子 (医学B 4年) 鈴木潤一 (医学B 3年)	
	小林諭史 (医学B 3年) 遠山直矢 (医学B 3年)	
	佐伯晋吾 (医学B 3年) 上野真帆 (医学B 3年)	
	大神彩夏 (医学B 3年) 木村剛 (医学B 3年)	
	木本義敬 (医学B 3年) 高浜麻衣 (医学B 3年)	
	坪根咲里依 (医学B 3年) 戸川文子 (医学B 3年)	
	仲野優 (医学B 3年) 水野ちづる (医学B 3年)	
	宮崎由依 (医学B 3年) 久保直登 (医学B 2年)	
	川口晃 (医学B 2年) 久松健人 (医学B 2年)	
	板坂美里 (医学B 2年) 下栗佳那美 (医学B 2年)	
	當間優生 (医学B 2年) 堀江ゆうか (医学B 2年)	
	薬師寺真生 (医学B 2年) 桃原華 (医学B 2年)	
	渋谷渚 (医学B 2年) 佐藤菜緒 (医学B 2年)	
	飛騨野篤 (医学B 2年) 恵美拓也 (医学B 2年)	
	東花奈子 (医学B 2年) 山元かなえ (医学B 2年)	
	吉村知佳子 (医学B 2年) 酒匂優嘉 (医学B 2年)	
	土肥聖未 (医学B 2年) 金谷妃呂子 (医学B 2年)	

1. 2014 年度を振り返って

Code Orange は山口県内での心肺蘇生法の普及を目的として設立されたサークルであり、設立より 7 年を迎えようとしている。設立当初のメンバーがほとんど卒業し、また新たなメンバーが大勢加入した本年度は、先輩方がこれまで築き上げてきたものを引き継ぐだけでなく、新メンバーを含む全員が高い知識と技術、そして意識を持って活動して欲しいと考え、「実践」をテーマに掲げ活動にあたってきた。

2. 本年度の活動内容

- ① 組織運営の引き継ぎ
- ② 新規メンバーの募集活動

- ③ メディックファーストエイド講習会受講
- ④ 部活動講習会@小串キャンパス
- ⑤ 七夕祭講習会&展示@吉田キャンパス
- ⑥ 医学部オープンキャンパス BLS 講習会@小串キャンパス
- ⑦ 医学祭市民のための心肺蘇生法講座@小串キャンパス
- ⑧ FM きららカップ宇部駅伝徒競走大会自転車救急隊&BLS 講習会@常磐公園
- ⑨ 山口大学医学部付属病院内 BLS 講習会
- ⑩ 他大学ワークショップへの参加
- ⑪ その他定期活動

3. Code Orange 内での活動

3-1 組織運営の引き継ぎ

本年度も昨年度からの体制を引き継ぎ、プロジェクト毎にプロジェクトリーダー（以下、PL）を設定し、そのPLが中心となってプロジェクトを行っていった。PLは1つのプロジェクトにつき2~3人設定することで、一人一人の負担を少なくできる上、幹部メンバー全員がPLを経験することができ、幹部メンバーとしての自覚も高まった。

3-2 定例会・定練会

Code Orange では週に一度、昼休みの約20分間を使って、メンバー内でのレクチャーを行っている。本年度は主に幹部メンバーである4年生と、次期幹部である3年生にプレゼンターを割り当て、活動を行った。内容は心肺蘇生法やBLS、ファーストエイドなどCode Orangeの活動に則したものの他、メンバー個人の活動の報告など、多岐に渡った。これは、定例会・定練会がメンバー教育だけに留まらず、各個人のプレゼン能力の向上、あるいはメンバー同士の交流といったものも目的としているからである。本年度はこの定例会・定練会を上手く活用することで、多くなったメンバーに対して効率良く教育を行うことができたと考える。

3-3 メディックファーストエイド講習会受講

6月に広島で開催されたMFAJAPANのファーストエイドコースをCode Orange内の有志のメンバーを募って受講した。これは、Code Orangeの活動内容の中に、メンバーのファーストエイドの知識・技術の習得が含まれているにも関わらず、これまでファーストエイドの講習会などは個人で受講するに留まっており、メンバー全員がその知識や技術を共有できていなかったためである。また、受講後には受講したメンバーが他のメンバーに対してレクチャーを行い、その内容をCode Orange全体に還元することで、多くのメンバーがBLSに加えファーストエイドの知識も習得し、今後の活動の幅も広げることができたと感じる。



図1 メディックファーストエイド講習会受講後のレクチャーの様子

4. 医学部内での活動

4-1 部活動講習会

昨年度同様、本年度も医学部学務課からの依頼に基づき、学生自治会と共同で、医学部学生を対象に BLS を行った。昨年度の受講者が約 50 名であったのに対し、今年度は 80 名以上の学生に講習会を行った。受講者を増やした背景として、医学科 1 年次のカリキュラムに含まれているフレッシュマンセミナーにおいて Code Orange が担当していた BLS 講習会が、昨年度から廃止されたことが挙げられる。これにより今年度の 2 年生は BLS を学ぶ機会がなくなってしまったため、できるだけ多くの 2 年生に BLS を知り、実践できるようになって欲しいという願いのもと、受講者を大幅に増加させることとなった。このことは BLS の効率的な普及という面ではとても有益であったが、同時にインストラクターを務める Code Orange メンバーに対し、新メンバーを含めて多くの参加人員を要求しなければならないという問題も生じた。しかし、先に述べた定例会や講習会前の練習会により、加入したばかりの新メンバーもインストラクターとして十分に活躍できるだけの知識・技術を身につけることができ、結果として部活動講習会は好評に終わった。講習後に受講者に記入してもらったアンケートでも、講習会に対する賞賛の声が多数寄せられ、医学生達の BLS の知識・技術の獲得に貢献できたと考えられる。



図 2 部活動講習会にて、熱中症の講義の様子

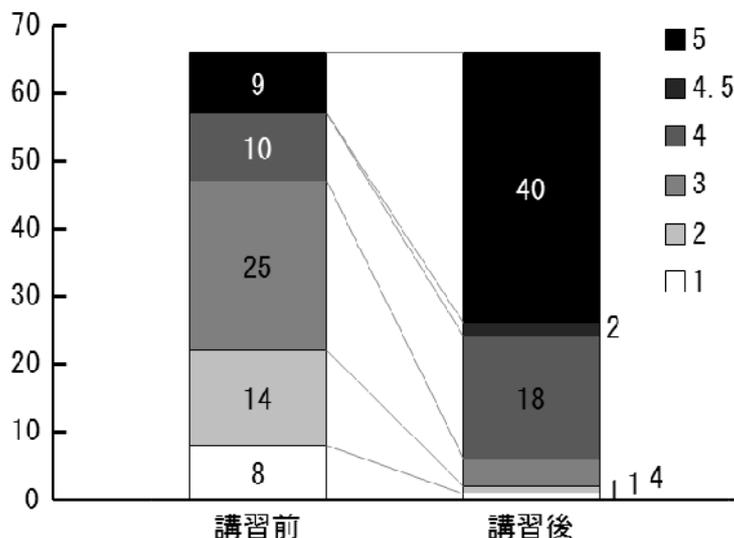


図 3 部活動講習会アンケート「講習会受講による BLS 理解度の変化（5 点満点による自己評価）」

4-2 頌徳碑清掃

Code Orange では、サークル設立当初から月に 1 回頌徳碑の清掃活動を行っている。頌徳碑とは医学生の実習室の解剖学実習室に対し、御遺体して下さった方々の御遺骨が収められている場であり、医学生として、その方々への感謝の意を忘れてはならない、という思いからこのような活動を行っている。本年度も引き続き毎月 1 度、清掃活動を行い、常に医学生としての自覚を持ち続けるようにした。

5. 医学部外での活動、及び市民に向けた活動

5-1 七夕祭 BLS 展示&講習会

本年度も山口大学吉田キャンパスで行われた七夕祭において、Code Orange の活動内容や BLS の基礎知識を示したポスターの展示をするとともに、一般市民を対象とした BLS 講習会を開催した。昨年度は大雨のため講習者が思うように集まらなかったが、今年は呼び込みに力を入れるなどしてより多くの方に講習を受けていただくとした結果、約 60 人の市民の方に BLS の講習を行うことができた。



図 4 七夕祭にて、BLS 展示ブースの様子

5-2 医学部オープンキャンパス BLS 講習会

8 月に行われた医学部オープンキャンパスにおいて、看護学を志望する中高生 150 人以上に対して BLS の講習を行った。この講習会は普段と異なり、講習時間が約 30 分と、人数に対して時間が短い中での講習会となった。そのため、BLS の中でも特に大事な胸骨圧迫（心臓マッサージ）と AED の使い方に絞って講習を行った。それでも講習者は真剣に取り組んでくれ、BLS の核となる胸骨圧迫と AED の使い方を習得してくれた。今後はこのようなポイントを絞った講習の練習も多く取り入れ、様々な状況で効率的な講習が行えるよう、日々の活動に力を入れていきたい。

5-3 医学祭市民のための心肺蘇生法講座

11 月 8、9 日に行われた医学祭において、例年通り市民のための心肺蘇生法講座を実施した。このイベントは Code Orange が年間を通して最も大事にしているイベントであり、メンバー全員が参加した。本年度の内容は、BLS 講習会に加え、昨年度取り入れた ACLS（二次救命処置）の実演も行った。BLS 講習会は例年通り 30 分程度で受講者の方々に BLS を教えたが、本年度は、以前に BLS 講習会を受講したことのある方を対象に、小児や乳児に対する BLS や、異物による気道閉塞時の対処法も講習内容として用意し、2 日間で 100 名を超える方々に受講していただいた。また、受講者にはお土産としてエコバッグ、クリアファイル、BLS の手順などが示されたポケットマニュアルの他、絆創膏やガーゼ、ビニール手袋などを入れたファーストエイドグッズを渡し、いざという時に慌てず対処できるよう工夫した。ACLS の実演は昨年同様、地域医療推進学講座の中村浩士先生の御協力のもと実施した。これにより BLS に続く「救命の連鎖」を市民の方々にも知っていただき、その上で BLS の

重要性をより強調することができた。



図5 医学祭にて、集合写真



図6 医学祭にて、ACLS 実演の様子

5-4 FM きららカップ宇部駅伝競走大会自転車救急隊&BLS 講習会

2月に行われたFM きららカップ宇部駅伝競走大会にて、自転車救急隊及びBLS講習会を実施した。これは、宇部市体育協会からの依頼で毎年実施している。昨年、一昨年と大きなトラブルは起こらなかったが、転倒による擦り傷や捻挫、筋肉痛などの応急手当を要する参加者が発生したため、本年度もそのような事態に備え、メンバーが抜かりなくファーストエイドを行えるよう準備して臨んだ。BLS講習会は例年受講者が集まらず苦勞していたが、本年度は中高生を中心に呼び込みをかけたところ、20名近くの方々に受講していただけた。来年度以降も、有事の際の対応のみならず、空いている時間での講習会も充実させていきたい。

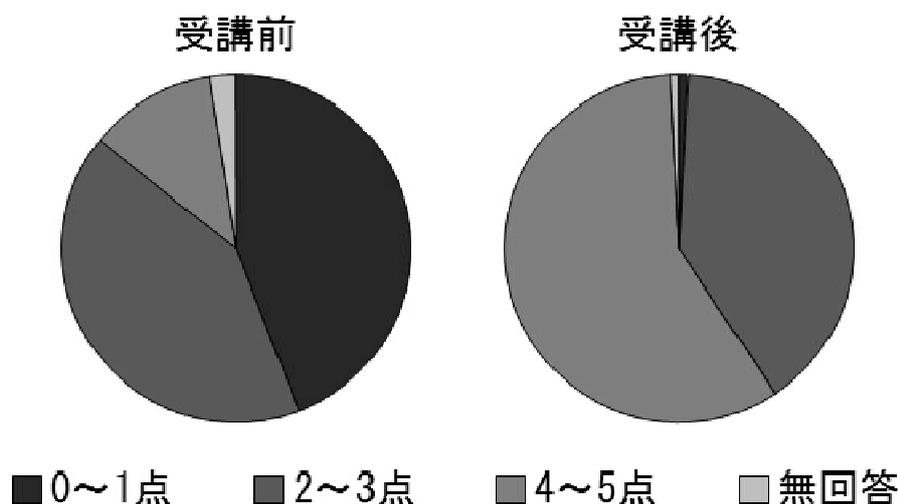


図7 医学祭アンケート「講習会受講によるBLSに対する自信の変化（5点満点による自己評価）」

6. 広報活動

今年度も、昨年度の活動に対し、おもプロ学長賞に選出、表彰していただいた。また、その様子を山口大学のHPに掲載していただくことができた。また、Code OrangeのHPも引き続き運営しており、さらにはSNSのFacebookを通して広報を行っている。特に今年度は毎週の定例会の様子やイベント・講習会の様子などを頻繁に掲載しており、多くの方々にCode Orangeの活動を知っていただこうと努力している。また、他大学でのWSへ参加することもCode Orangeの活動を周知する良い機会になっており、中国地方や九州地方の大学などにおける知名度も高まってきている。

7. 来年度に向けて

今年度の活動は、以前から行ってきた活動を引き続き行うといった形をとったものが多く、本年度新たに導入した体制やイベントは少なかった。これは設立当初のメンバーの卒業及び多くの新メンバーの加入に伴い、今一度Code Orangeの活動の根幹をメンバー全員で共有し直すことが必要であると考え、メンバー教育に重点を置いたためである。その甲斐あってか、新メンバーを含むメンバー全員の知識・技術の底上げをすることができ、良い状態で来年度に引き継ぐことができそうだ。そこで来年度は、これまでの活動に加え、さらに多くの市民イベントへの参加を予定しており、また、6月には昨年度行ったBLS&ファーストエイドの学生ワークショップを再び行うことになっている。これらのことにより、さらにメンバーが成長し、より多くの市民へBLSを普及したいと考える。

8. 総括

度々申し上げている通り、Code Orangeの活動の根幹は「BLSの普及」である。この活動にはゴールがなく、またその成果も目に見えて実感しづらい。しかし、突然の心肺停止という事例は身の回りでも起こりうることであり、昨年度には実際に山口大学内でもBLSによって心肺停止状態から社会復帰を果たしたという事例も存在し、メンバー内にも実際に心肺停止の傷病者に対してBLSを施したこともあった。これらのことから考えても、心肺蘇生法を始めとするBLSを普及することの意義は大きく、今後とも我々は医学生としての責任と自覚を持って、一人でも多くの命を救うことに尽力する所存である。